病院名	岩手県立宮古病院
研修科目名	小児科

◇研修目標

Ａ　一般小児科学

1　小児の疾患の主な症状の鑑別診断について述べ、適切な処置を行うことができる。

（1）　発熱、発疹、咳、喘鳴、腹痛、嘔吐、下痢、痙攣、意識障害、下・吐血、出血傾向等

（2）　特に緊急を要する病態

1）脱水症：程度の判定と応急処置ができる。
2）喘息発作：重症度判定と応急処置ができる。
3）けいれん：鑑別診断と応急処置ができる。
4）腹痛：鑑別診断と適切な対応ができる。
5）事故：異物誤飲、中毒、熱傷に適切な対応ができる。
6）腸重積症：診断と適切な対応ができる。
7）急性虫垂炎：診断と外科へのコンサルテーションができる。

2　小児の感染症を適切に処置できる。

（1）　ウィルス感染症

1）麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、突発性発疹、インフルエンザ等の診断、治療、合併症を述べうる。
2）気管支炎、細気管支炎、クループの臨床症状とその処置について述べうる。

（2）細菌感染症

1）呼吸器感染症、肺炎、百日咳等の臨床症状とその処置について述べうる。
2）尿路感染症の臨床症状とその処置について述べることができる。
3）髄膜炎の鑑別診断、原因菌、治療について述べ、管理ができる。
4）主な細菌感染症の臨床症状とその処置について述べることができる。
溶連菌、ブドウ球菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、ＧＢＳ等
5）主な抗生物質につきその正確な使用法を述べることができる。
セフェム、アミノグリコシド、マクロライド、ＴＣ系
6）MCLSの臨床症状（合併症を含む）と処置について述べることができる。

3　循環器系疾患の基本的な処置ができる。

（1）　うっ血性心不全の管理ができ。ｼﾞｺﾞｷｼﾝ、ﾗｼｯｸｽの使用法を述べられる。
（2）　新生児期に緊急処置を要する心疾患の鑑別診断と処置について述べられる。
TGA、PPA、PPS、TA、TAPVC、TOF、Truncus、Ebstein 等
（3）　プロスタングランディン、ドパミンの使用法について述べることができる。
（4）　身体診察、胸部写真、ＥＣＧにより次の疾患の鑑別診断について述べることができる。　VSD、ASD、PS、PDA、Functional murmur

4　小児の主な血液疾患、悪性腫瘍の適切な処置ができる。

（1）小児の貧血の鑑別診断について述べることができる。
（2）鉄欠乏性貧血の診断と処置ができる。鉄剤を正しく使用できる。
（3）出血性疾患の鑑別診断と処置について述べることができる。
（4）白血病の診断ができ、治療の原則を述べることができる。
（5）主な固形腫瘍の臨床症状と治療の原則について述べることができる。
ウィルムス腫瘍、神経芽腫、ホジキン病など

5　小児の腎疾患について適切な処置を行うことができる。

（1）ネフローゼの臨床症状と治療について述べることができる。
（2）急性糸球体腎炎の臨床症状と治療について述べることができる。
（3）血尿、蛋白尿の鑑別診断について述べ、これらの管理、生活指導ができる。

6　小児の痙攣の適切な処置ができる。
（1）小児痙攣の処置ができる。
（2）痙攣の鑑別診断について述べることができる。
（3）単純性・複合性熱性痙攣について述べることができる。
（4）主なてんかんの症状を述べることができる。
　　大発作、純粋小発作、点頭てんかん、ミオクロニーなど
（5）主な抗痙攣薬の使用法について述べることができる。
　　フェノバール、アレビアチン、バルプロ酸、クロナゼバン、テグレトールなど

7　消化器疾患
（1）消化器症状（嘔吐、下痢、腹痛、血便、便秘）をきたす疾患について各年齢に
　　応じて鑑別診断し、治療できる。
（2）腹部単純写真、ＣＴ、ＭＲＩの読影ができる
（3）胃洗浄、腸重積症の整復、ソケイヘルニアの整復ができる。

8　アレルギー性疾患
（1）小児アレルギー疾患の判断をすることができる（病歴、身体診察により）。
（2）アレルギー学的検査法を使用して、患者の状態を評価できる。
（3）気管支喘息の管理を慢性疾患として監督下にできる。
　（軽症、急性例は自らできる）
（4）気管支喘息の発作時の重症度を判定でき、適切な処置ができる。
（5）食物アレルギー、アトピー性皮膚炎の治療、一般的生活指導ができる。

9　小児の輸液管理ができる。
（1）小児の維持輸液について述べることができる。
（2）脱水症の病態生理とその治療について述べることができる。
（3）心疾患、腎疾患の輸液について述べることができる。

10 乳幼児の発育、発達の異常を診断できる。
11 次の手技を正しく行うことができる。
（1）点滴ルートの確保
（2）腰椎穿刺
（3）骨髄穿刺
12 小児の予防接種の正しい実施法について述べることができる。

Ｂ 新生児学
一般小児科医もしくは家庭医として新生未熟児の死亡率を減少させ障害児の発病を防止するため、新生児・未熟児の適切な診療ができ、異常新生児を診断できる。
軽症患者を自分のもとで管理し、重症者はその状態を安定化させ専門医に適切な紹介ができる。

1　正常新生児のルーティン・ケアについて述べ、施行することができる。
　分娩直後の取扱、点眼、Vit.K投与、授乳、母子関係、環境設定など
2　胎児仮死、早期破水、糖尿病、中毒症などが新生児に及ぼす影響を述べうる。
3　新生児仮死の状態生理と蘇生法を述べ、自ら蘇生術を施すことができる。
4　新生児の診察を適切に行い、異常な症状を判断できる。
5　異常黄疸、呼吸障害、哺乳不良、異常体温、痙攣、出血などの意義を述べうる。
6　新生児未熟児の輸液、栄養につき適切に述べうる。

7　黄疸の病態生理について述べ、適切な管理ができる。
（1）検査、紹介の必要性の有無を判断し、光線療法の管理などができる。
（2）交換輸血の適応と方法について述べることができる。
8　呼吸障害について主な疾患について述べ、救急処置ができる。
（1）専門医の監督下にＲＤＳの治療ができる。
9　新生児低血糖症の管理ができる。
10 未熟児の管理原則を述べ、軽症患者管理ができる。
11 新生児の感染症の特徴(原因菌、症状など)につき述べ、監督下に治療できる。
12 新生児によく使われる薬物につき、作用と使用法を述べることができる。
　抗生物質、ﾄﾞﾊﾟﾐﾝ、ﾌﾟﾛｽﾀｸﾞﾗﾝﾃﾞｨﾝ、ｲﾝﾄﾞﾒｻｼﾝ、Vit.K、ﾌﾛｾﾏｲﾄﾞなど

◇　**週間予定表**

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	喘息外来	予防接種	慢性外来	乳児検診	各種検査
	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診